



大学ではコーチングを研究し、学内外の野球部をはじめとするスポーツ活動を支援しています。今年、ワールド・ベースボール・クラシックが関心を集め、野球への注目が高まっています。今後、「するスポーツ」としての野球はどのようになっているか整理してみます。

### 松井 克典 日本工業大学准教授

# これからの野球には「多様性」を



まつい・かつのり 専門はコーチング学。一般社団法人野球まなびラボ代表理事として指導者向けセミナーなどを主宰する。49歳。

観点では、毎日の活動は必要でないともいえます。

高校野球は、するスポーツとしても見るスポーツとしても、魅力があると思います。

しかし、甲子園を目指す多くの高校球児がいる一方で、甲子園にはとらわれず純粋に仲間と野球を楽しみたい、少し緩く野球をやりたいという選手も存在します。部員不足に悩んでいるチームもあります。また、多くの部員を抱えるチーム

では多くの補欠を生み出します。負けたら終わりのトーナメント形式の見直しや、甲子園大会を中心に全国全てが回る高校野球にも一石を投じる時期にきているのかもしれない。

近年の学習指導要領の改訂により、小・中学校の体育・保健体育の授業では、「ベースボール型」の種目に取り組んでいます。現代はスポーツの多様化が進み、子どもたちにとって身近とはいえなくなった野球に親しむ機会ができたことは貴重です。授業の経験を基に、競技としての野球を続け、生涯にわたって楽しんで

らいたいところです。

女性にとっては、プレーする環境が増えてきています。女子野球人口は各カテゴリーで年々増え続けています。野球は男女問わず、みんなのスポーツとして認識され、女性もさらに楽しみやすいよう環境を整えていくことが求められます。

これからの日本の野球に求められていることは多様性、そして選手だけでなく指導者や保護者、地域なども含めた関わる人たちのウエルビーイング(幸福感)の追求です。これまでの固定観念や当たり前を疑い、選手や関わる誰一人取り残さずワクワクして取り組める、「するスポーツ」の野球を創っていくことが大切なのではないでしょうか。

次回は刀禰真之介・メンタルヘルステクノロジーズ代表